

趣味・教養型と社会参画型を融合した参画型学習機会の提供事業

氏 名 清水 英男

所属センター名 栃木センター

【概要】 公的教育の目的である「人格の完成」と「国家・社会の形成者」（教育基本法第1条）として必要な学習内容の両方を融合し、受講者が主体者となってかわる学習機会の提供事業（以下「参画型学習機会の提供事業」という。）の実践事例を紹介する。

本稿での事例は、筆者が平成16年から平成25年までの10年間にわたり主任講師として関わった「松戸市生涯学習大学講座専攻科（平成24年度からは「ふるさと発見創造講座」となる。）」である。この専攻科・講座での参画型学習機会の提供事業は、先ず、受講者が興味・関心を持っている地域の自然・環境・歴史・文化など趣味・教養に関する分野を自ら選択し自主的な学習・調査・研究活動を盛んに行い、そして、受講後もグループによる調査・研究を継続し、そこで得た成果を市民に還元することを狙いとした。具体的には、受講中は班別による自発的な調査・研究活動を重視した。修了後は自ら企画・運営・評価する講座の開催や調査・研究対象の保全・啓発などの社会貢献活動に結び付くことを期待したのである。平成24年度の学習プログラムは以下の通りである。この年度の特徴は、受講中に市民を対象にした講座を企画し運営・評価をする体験学習を盛り込んだことにある。

日 程	内 容
5/16(全体会)	開校式・オリエンテーション 基調講演：生涯学習ボランティアと“まち（地域社会）”づくり～発達とともに学びあひ、松戸の魅力を発見し市民に伝えるヒントを考える
5/23(全体会)	講演：グループ活動を継続している専攻科修了生に聞く（江戸川研究会／緑のガイド下藤／水戸道中藤栗毛） （調査・研究の内容と現在の活動状況の説明。次回これらのグループによる現地散策へ参加するコースを受講生が選択し決定する。）
5/30(現地散策)	コースA 鮮魚街道を歩く コースB 緑のガイド コースC 古き松戸を訪ねて
6/6(全体会)	講演：グループ活動を継続している専攻科修了生に聞く（松戸を知らず会／坂川を歩こう会／樹の会） （調査・研究の内容と現在の活動状況の説明。次回これらのグループによる現地散策へ参加するコースを受講生が選択し決定する。）
6/13(現地散策)	コースA 上本郷の七平思議を回ろう コースB 坂川の安運を追って コースC 松戸の樹を訪ねる散歩
8/20(全体会)	協議・講義：研究テーマ(仮)を話し合う （講義・演習：ワークショップによる調査・研究プログラムづくり）
8/27(全体会)	演習：グループづくり①（仮班づくり） 講義・演習：グループづくり②（講義：グループに必要な機能とリーダーシップ） 協議：研究テーマ(仮)の決定
7/4(現地調査)	研究テーマ(仮)の協議
7/11(全体会)	協議：各班の研究テーマ(仮)を発表し、全員が再度希望する仮班に参画する。その後、仮班での協議を経て、正式な班名前や研究テーマ、連絡網や役割分担、調査・研究プログラムなどを決定する。
8月～9月	班ごとの実情に応じて、フィールドワークなどの現地調査や文献調査などを行う。
9/5(全体会)	協議：班別調査・研究活動の経過報告
9/12	班別調査・研究活動
9/19	班別調査・研究活動
9/26	班別調査・研究活動
10/3(班長会議)	班別調査・研究活動（班長会議：班活動の問題点や解決策等を話し合う）
10/10	班別研究活動
10/17	班別研究活動
10/24	班別研究活動
10/31	班別研究活動
11/7(全体会)(班長会議)	協議：各班の調査・研究内容の概略の発表と質疑・応答、提言
11/14(全体会)	講義：学びの成果を生かすために 講義・協議：松戸の魅力を伝える講座を企画する①（講義・演習：ワークショップによる学習プログラムづくり～学びの成果を生かす「自主企画講座」開設のために）
11/21	協議：松戸の魅力を伝える講座を企画する②
11/28(全体会)	協議：松戸の魅力を伝える講座を企画する③
12/5	協議：自主企画講座内容の決定 （※1月15日までの広報で自主企画講座の募集を行う）
12/12	協議：講座実施に向けての準備①
1/18	協議：講座実施に向けての準備②
1/23	協議：講座実施に向けての準備③
1/30(全体会)	協議・演習：講座実施に向けての準備④（演習：講座に関するQ&A）
3/6、13、20	それぞれの班で「自主企画講座」を実施する。
3/6(全体会)	・開校式 ・講評 ・報告書提出・振り返りと今後の活動に向けての準備など

注意1：上記日程は、変更することもある。

注意2：また、班別活動の日程は、班ごとに決めることができる。

注意3：本月に実施する自主企画講座については、班内団体の協力を得ても合同で実施してもよい。

また、特に必要があれば、外部講師など班員以外の人の協力を得ることも可能である。

【成果ないしは効果】 受講生の変容等に応じて学習内容や講師等が変更できる“呼吸する学習プログラム”を開発し実践できた。また、平成26年4月現在で13グループが事後活動を行っている。しかし、これらのグループに新規加入者が少ないことが課題といえる。

【資料・文献】 清水英男著「趣味・教養型と社会参画型を融合させた学習機会の提供事業の研究」聖徳大学生涯学習研究所紀要第11号（聖徳大学 平成25年3月）